

令和8年度 下新倉小学校 経営方針

1 学校教育目標

かしこく やさしく たくましく

*大切にしている活動

学び合い 助け合い 鍛え合い

2 目指す学校像

えがおいっぱいのもにっ子を育む学校

ありのままのすべての児童を認め、個々を鍛え伸ばすため、地域の特性も踏まえ、「学校の主人公は一人一人の児童である」ことを大前提に、

えがおいっぱいのもにっ子の育成

を目指す。「えがおいっぱいのもにっ子の育成」とは、だれ一人とり残すことのない、全ての児童の育成のために、達成すべき学校の方向性を端的に表したものである。

① え えんを大切に、周りを思いやる言動をとります

望ましい人間関係を築きながら学校生活を送る上で、互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることはとても重要である。そのためには、自身の周りのすべての人に対して感謝の気持ちを持ち、広い心で相手を受け入れる必要がある。そこで、挨拶をはじめとする行為を真心込めて行い、寛容の精神をもって行動する児童を育成することで、思いやりあふれる関係性を構築するとともに、子供を中心に学校と家庭や地域とがつながり、様々な教育活動を協働して行いながら、個々の状況や立場を許容し合える学校づくりを目指す。

② が がんばりを認め合い、高め合える友達をつくります

友達や仲間は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う友情関係を築くことは、学校生活において必要不可欠である。友達同士で異なった意見や立場を互いに尊重し、広がりや深まりのある人間関係を構築していく中で、互いの成長に大きく影響し合える関係性を築くことができる児童の育成を通して、教育活動全体で一人一人の居場所を保証し、児童が「今日も学校へ行こう！」と思える学校づくりを進める。

③ お おおきな夢をもち、学習に進んで取り組みます

新しい価値が生み出され、構造そのものが変化してきている社会において、変化の中でも生き抜く資質・能力を育むためには、受け身ではない、自分自身で考え動いていけるような「自律した学習者」を目指すことが必要不可欠であると考え。そこで、学びの質の改善を図るとともに、自分自身で進むべき夢をもち、学習の主体者として自ら考える子供の育成を教育活動全体で取り組んでいく。と同時に、様々な教育活動を見直し、持続可能な教育活動を行いながら、教職員を含めた本校に関わる各々の人のウェルビーイングを高められる学校づくりを推進する。

これらの考え方のもと、豊かな人間性に根ざした学力や体力を、学校生活全般を通して個々に応じて育み、心身ともに健康な児童の育成を一貫して行うことで、文字通り笑顔あふれる学校を目指すことを、本校の学校経営における最も基本となる理念とする。

3 児童像

進んで学び合い、夢に向かって進んでいく子
 仲よく助け合い、思いやりをもって接する子
 互いに鍛え合い、最後まで粘り強く頑張る子

4 教師像

研究と修養に励み、児童のよさや可能性を伸ばす教師
 児童に愛情を注ぐ、人間性豊かな教師
 互いに切磋琢磨し、組織の一員として協働する教師
 児童や保護者、地域の期待に応える教師

5 「目指す学校像」実現のための取組目標と達成に向けた方策

目指す学校像	取組目標	達成に向けた方策
えが え いっぱい ＜助け合い＞	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を認め、ウェルビーイングを高め合える、豊かな人間性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を認め、高め合える人間関係の構築を図る。 全教育活動における道徳教育の着実な実施による心の教育の推進を図る。 <u>児童理解を深め、生徒指導、教育相談の充実を図る。</u> <u>一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育の充実を図る。</u>
えが か いっぱい ＜鍛え合い＞	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向かって忍耐強く取り組み、学校や地域が好きと言える児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって運動に親しむことにつながる体育授業の展開と健康教育の充実を図る。 <u>食育を推進するとともに、心身ともに健康に過ごすために必要な自己調整力の向上を図る。</u> <u>家庭や地域の教育力を活用し、教育活動の充実を図る。</u> 児童自身の「自分の命は自分で守る」という意識を高めるとともに、安心・安全な教育環境を整える。
えが お いっぱい ＜学び合い＞	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の創り手として必要なエージェンシーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の着実な実施と、各学年の基礎的基本的学習内容の定着を図る。 <u>ともに学び合う授業への転換や教科担任制を生かし、主体的な学習者の育成と学習活動の質的向上を図る。</u> <u>教育DXを推進し、学習活動の深化を図る。</u> 司書教諭を中心に図書館アドバイザーとも連携しながら、読書活動の一層の定着を図る。

※「達成に向けた方策」のうち、下線のある方策は今年度の重点方策

6 今年度の重点

取組目標		重点方策	具体的な重点
(1) 助け合い	多様性を認め、ウェルビーイングを高め合える、豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解に基づく生徒指導・教育相談の充実 	重点①いじめ防止基本方針をもとにした、いじめに係る指導の徹底 重点②新規不登校児童を生まない組織的な働きかけの徹底 重点③全教職員の共通理解を土台とした規範意識や学習規律に係る指導の徹底
		<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育の充実 	重点①児童の多様性を包摂したカリキュラムマネジメントと関係諸機関との連携 重点②教科担任制の着実な実施による、個々の児童に合わせた指導の個別化

取組目標		重点方策	具体的な重点
(2) 鍛え合い	目標に向かって忍耐強く取り組み、学校や地域が好きと言える児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 食育の推進と健康に過ごすために必要な自己調整力の向上 	重点①規則的な生活リズムの習慣化と児童自身で健康管理ができる保健指導の推進 重点②栄養職員と連携・協力した組織的な栄養指導等、食育の推進
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域の教育力の活用 	重点①地域環境の教育活動への積極的な活用 重点②地域人材の教育活動への活用

取組目標		重点方策	具体的な重点
(3) 学び合い	持続可能な社会の創り手として必要なエンジェンシーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ともに学び合う授業への転換による主体的な学習者の育成 	重点①わかった・できたという機会の増加による、「自己有用感」「自己効力感」を育む授業の推進 重点②「好き」を育み「得意」を伸ばすことを意識した、学習の個性化による自律した学習者の育成 重点③「生きて働く」とともに「未知の状況にも対応できる」知識・技能の習得を目指した深い学びの具現化
		<ul style="list-style-type: none"> 教育DXの推進 	重点①主体的に学び続ける素地としての情報活用能力の育成 重点②生成AIの利活用も考慮した、授業のDX化の推進

その他の重点項目		今年度の重点
(4) 研究・研修	校内研修の充実	<p>○目指す学校像の実現に向けた実践的指導力、授業力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員参画による校内重点研究の充実 令和7・8・9年度和光市教育委員会研究委嘱（本年度2年目） <p><研究主題> <u>互いを大切にし、自己肯定感を高め合う児童の育成</u> <u>～一人一人が自分の良さを発揮できる授業づくり・学級づくり～</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の研修内容の精選、充実（人権、特別支援、情報）
(5) 働き方改革	校務の適正化	<p>○チームでの対応の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や教科を単位とする授業準備 ・行事等の準備、運営 ・支援が必要な児童や家庭への対応 ・心身の健康管理 ・柔軟な働き方への相互フォロー <p>○教職員個々の立場からの時間対効果、費用対効果を意識した見直し</p> <p>○勤務時間の適正化（時間外勤務について月45時間未満、年360時間未満の徹底）</p>